

ふるさと納税の寄付金を活用して まちを元気に みんなを笑顔に

寄付をする人が6つの事業から寄付金の使い道を選択。関連する市の事業に寄付金を活用します。

- 1 環境循環型社会の構築に関する事業
- 2 健康づくりに関する事業
- 3 質の高い教育、文化の向上に関する事業
- 4 地場産業の育成と雇用の促進に関する事業
- 5 観光の振興に関する事業
- 6 その他目的達成のため市長が必要と認める事業

小・中学校
電子黒板・デジタル教科書

こんなことに
使われています



児童・生徒の学力向上のために市内の小・中学校全校にデジタル黒板を236台導入。主要教科にはデジタル教科書も導入しました。

活用金額
約7,300万円



一流の人材の講演で、子どもやその指導者らの育成につなげます。



活用金額 約200万円

コミュニケーション

要介護認定調査の円滑化のために、会話支援機器（コミュニケーション）を購入。要介護認定調査員用に10台を購入しました。

活用金額
約250万円



ふれあいスポーツセンター 人工芝張り替え

劣化した人工芝を新しく



活用金額(設計) 約300万円

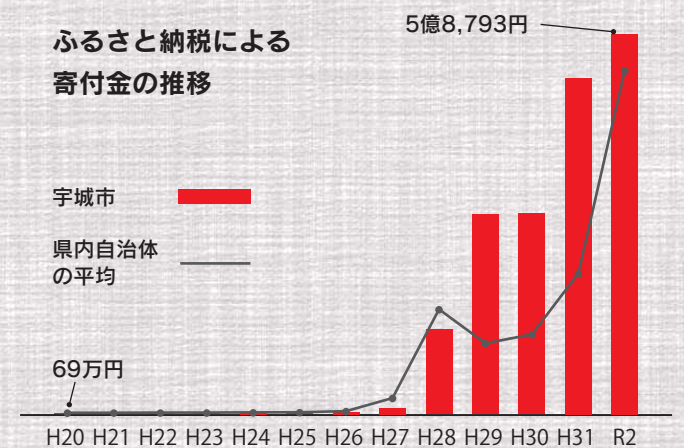
マイクロバス

安全安心な学校行事、市の事業の実施に利用



活用金額 約700万円

ふるさと納税による 寄付金の推移



未来に向かって 住み続けたいまち

一人一人の幸せのために
市民の視点に立ち、
満足度が高いまちの実現を
目指す市長に話を聞きました。

「UKINISUM」

将来の人口減を見据え、市は、令和2年3月に「第2期まち・ひと・しごと創生 総合戦略」を策定しました。

これは、この地域で生まれ育つ人々が、良質な子育て支援や教育を受けて、生涯にわたり健康に過ごしながら、地域社会で活躍・貢献する次世代の人材を育むことを基本理念としています。

また、市の魅力や住みやすさ

子育てするなら宇城市

を多くの人に伝え、宇城市に集い、暮らし、活躍する人を増やしたい、そんな想いを象徴するフレーズ「UKINISUM」を掲げて市の主義や流儀を浸透させ、「宇城に住む」皆さんと共に、地方創生の実現に向けて取り組んでいきます。

中でも、給食費の無償化や子ども医療費の助成を18歳まで拡大することなど、子育て世代が住みやすく、宇城市で活躍する人材を育む好循環が生まれる仕組みを目指しています。

を発信し、選ばれるまち



ています。このサイトでは、市民を中心とする25人のアンバサダーが市内の今を切り取り、紹介していて、私も知らなかった新しい発見に出会えます。

買い物や医療、仕事への距離感、程よい田舎感も含め、私が目指す「ちよūdい！住みやすさを実感できる都市・宇城」を、市民の皆さまが実感でき、市外の方々から選ばれる。そして、子どもたちが郷土に誇りを持って住み続けたいと思えるまちづくりに向けて、さまざまな「ウキ推し」を発信し、多く

の人に地域の魅力を伝えていきたいと思っています。目指すのは、市民満足度が高いまち。蒲島熊本県知事のお言葉を借りると、「総幸福量の最大化」。ここがいいと皆さんが思えるまちづくりを進めていきます。

ふるさと納税で頂く寄付金は、そんなまちを皆さんと一緒に作り上げるための財源です。まちの未来のため、市民の皆さんに有益な方法で活用していきます。



宇城市長

守田 憲史

地域ブランド調査2021 魅力度ランキング(熊本県内)

1位	熊本市	11位	荒尾市
2位	阿蘇市		玉名市
3位	天草市	13位	宇土市
4位	南阿蘇村		
5位	人吉市	14位	宇城市
6位	上天草市		：
7位	小国町		へえ～14位。
8位	南小国町		県内の自治体は
9位	八代市		14市、31町村。
10位	山鹿市		ちよūdい？でも、
			上位を目指したい！！

